

当初計画					実施状況																
方針	計画の目標	事業	具体的な取り組み	活性化のため重点的に取り組む事業	実施施策(H22～24年度)	実施時期(年度)			実施効果(推定・千人)		協議会事業費(百万円)			その他事業	施策評価	ハード整備完了施策	継続性				
						H22	H23	H24	H22	H23	H22	H23	H24(予算)								
方針1	他の交通機関に対する競争力の向上	輸送サービスの改善	① 企画きつぷの充実と効果的なPR活動	○沿線内の施設と連携した企画きつぷ等の充実(方針3-④を含む)	○おもてなしきつぷ(沿線店舗利用券付)発売、シニアバス提示サービス施設・サポーターズくらぶ協力店舗の開拓										○		継続(費用対効果考慮)				
				○自治体広報誌や新聞折り込み等を活用し、沿線内外に効果的にPR(方針1-②を含む)	自治体広報誌への情報掲載(随時) おでかけガイド(各年)、協議会だより(年4回)の制作・配布(新聞折込を含む)												○		継続(費用対効果考慮)		
				○フレンドショップ等の販売拠点の充実(方針6-③を含む)	企画乗車券販売機設置(栄、緑が丘、恵比須、三木、小野)												◎	◎	既存施設活用		
				・沿線のイベントと連携した企画きつぷの検討(方針3-③で対応)	三木金物まつり1dayチケット発売															継続(費用対効果考慮)	
				○自治体広報誌や新聞折り込み等を活用し、沿線内外に効果的にPR(方針1-①で対応)	自治体広報誌への情報掲載(随時) おでかけガイド(各年)、協議会だより(年4回)の制作・配布(新聞折込を含む)															継続(費用対効果考慮)	
			② 割引制度等の充実	・新たな割引制度の検討	○	神鉄・高速シニアバス発売、粟生線～三宮 平日昼間・土日おでかけきつぷ試験発売とPR、三木市・福祉バスの拡充(高齢者・障害者)												◎		継続(状況により見直し)	
				③ ダイヤの改善・運行本数見直し等の運行改善	・昼間優等列車運行による速達性向上の検討	H24.5/19ダイヤ改正(昼間時間帯の急行新設)												○		継続(状況により見直し)	
			④ 接客サービスの向上	○利用満足度を高めるための社員教育の実施	○	継続実施														継続	
				○ご利用・ご乗車マナーの向上啓発(方針6-①を含む)	○	キャラクターによるマナー啓発ポスター制作・掲出、グッドマナーキャンペーン(高校生による絵画・放送作品募集)														継続(費用対効果考慮)	
				・快適な車内環境の創出(音楽等)の検討	○	沿線高校生製作のポプリを車内吊下														-	
⑤ 利用しやすい駅・快適な駅づくり	○夜間照明の増設等駅施設の改善	○	駅周辺植栽整備(鈴蘭台西口、西鈴蘭台、三木上の丸、小野)、構外市民トイレの整備(三木)、待合室の整備(粟生)													◎	既存施設活用				
	・車両における座席や空調の改良等、快適性向上の検討	○	キャラクターシート導入(6編成)													◎	既存施設活用				
方針2	駅勢圏(駅の集客範囲)の拡大	駅アクセスの改善と駅の活性化	① 駐停車エリア、駐車場駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信	○キス&ライド(送迎)用駐停車スペースの確保	(現状では該当なし)													適地状況により検討			
				○パーク&ライド用駅前駐車場の整備	時間貸パーク&ライド駐車場整備(新設:押部谷、広野ゴルフ場前、三木、小野<2か所>)(割引機器整備:恵比須)												○	◎	既存施設活用		
				○駐輪施設の改善・整備	駐輪場屋根整備(木津)													◎	◎	既存施設活用	
				○到着時刻の表示された神鉄運行時刻表の作成	おでかけガイド等に掲載・配布															継続(適宜更新)	
				○駐車場・駐輪場等の駅周辺施設案内板の整備	駅周辺案内看板設置(栄、緑が丘)														◎	◎	既存施設活用
				○インターネット等を使用した乗り継ぎ情報等提供サービス	加古川線・北条鉄道・有馬線・三田線との乗継情報を含む時刻表を協議会HP・おでかけガイド等に掲載・配布																継続(適宜更新)
				○バスとの効果的な接続	各市域バスアクセスマップの制作・配布(おでかけガイドへの掲載含む)																継続(適宜更新)
			②	・電車発着時刻と整合を図るバスのダイヤの検討	○	バス事業者との情報連携継続															継続(効果向上を検討)
				・駅へのアクセスバスの検討	○	検討中															継続検討
			③ 駅前の特色あるイベントの開催	○既存の駅前イベントのPR(方針3-③で対応)	○	協議会HP(しんちゃんニュース)等で随時PR告知実施															継続
・駅前イベントの新たな企画の検討	○	駅前朝市(緑が丘)、キャラクター列車出発式(小野)、ラッピング列車お披露目式(志染)、OTH cookingイベント(粟生)などの実施																継続(費用対効果考慮)			
④ 駅の空きスペースの活用	○駅の空きスペースを活かした活性化策の展開(観光案内所等)(方針6-②で対応)	○	(実施環境整わず)														継続検討				

○: 実施する事業(当初計画)
 ・: 検討する事業(当初計画)

: 実施・着手済施策 ※実施施策のうち重複しているものは、1か所のみを太字表記している。
 : 重複施策
 : 未着手施策 ※実施効果については定量的な効果推定が可能なものを表記している。

当初計画					実施状況															
方針	計画の目標	事業	具体的な取り組み	活性化のため重点的に取り組む事業	実施施策(H22~24年度)	実施時期(年度)			実施効果(推定・千人)		協議会事業費(百万円)			その他事業	施策評価	ハード整備完了施策	継続性			
						H22	H23	H24	H22	H23	H22	H23	H24(予算)							
方針3	定期利用と交流人口の拡大	定期利用者の増加と新規利用者の開拓	① 沿線立地企業等への粟生線通勤・通学利用のPR	○携帯時刻表の作成・配布によるPR(方針4-①に対応)	○	おでかけガイド等に掲載・配布(新聞折込含む)												継続(適宜更新)		
				○駅とのアクセス交通の支援(方針4-①に対応)	○	検討中														継続検討
				・各種定期券設定の検討	○	通勤手段を変更(クルマ→粟生線)した通勤定期利用者への支援制度の可能性を検討中														
			② 小中学校等への粟生線利用の促進と支援	○小中学校の校外学習等の企画・実施サポート	○	農業体験(粟生)、環境体験(三木山森林公園)構外学習企画の実施					3	1								継続(費用対効果考慮)
				○小学生、園児を対象とした乗り方教室、体験乗車等の実施(方針4-①を含む)	○	公共交通利用啓発教材の制作、各種イベントでの活用(紙芝居等)、沿線小学生・園児対象の工場見学会実施							2	0.1	0.5					
			③ 地域間の各イベントとの連携強化	○駅からイベント開催地への誘導	○	協議会だより・新聞広告等によるPR														継続(費用対効果考慮)
				○既存の駅前イベントのPR(方針2-③を含む)	○	協議会HP(しんちゃんニュース)等で随時PR告知実施														
○神鉄ハイキングのPR拡大	○	協議会だより等でのPR、スタンプラリーとの連動(ウォーク&スタンプラリー)																		
○加古川線等利用促進・沿線地域活性化協議会イベントとの共催	○	清盛トレイン運行、婚活列車企画・OTH cooking等の連携イベント、絵画公募展・ホスターコンクール実施(北播磨県民局)								2	4	1					県との共催事業			
④ 沿線地域における観光資源の魅力的な活用	○沿線内の施設と連携した企画きっぷ等の充実(方針1-①に対応)	○	沿線ゴルフ場でのプロ・アマのPR、送迎バスとの連携(サントリーレイニス、パナソニックオープン等)														継続(費用対効果考慮)			
	○観光マップの駅等での配布	○	沿線イベントでの利用啓発グッズ配布と併せたPR活動、ミニトレイン製作・運転と併せた利用啓発活動実施(神鉄トレインフェスティバル、三木金物まつり、小野まつり等)																	
	○認知されていない観光資源の活用	○	沿線イベントでの利用啓発グッズ配布と併せたPR活動、ミニトレイン製作・運転と併せた利用啓発活動実施(神鉄トレインフェスティバル、三木金物まつり、小野まつり等)																	
⑤ 魅力的な車窓からの景観づくり	○沿線に植樹・植栽等を実施	○	見津車庫構内植樹、木津駅周辺植樹、葉多駅周辺菜の花植栽														◎	既存施設活用		
	○車窓からのフォトコンテストの実施	○	粟生線フォトコンテスト実施、ポスター制作(神鉄ラリーフェスタ)									1	1				—			
⑥ 鉄道に関するイベントの開催	○神鉄トレインフェスティバルの拡大実施	○	トレインフェスティバルへの地域参画・来場者への利用啓発														◎	継続(費用対効果考慮)		
	○ミステリートレインの拡大実施	○	沿線施設と連携したミステリートレイン運行・利用啓発														○			
	○沿線の魅力を発信するラッピング列車の運行(方針4-②を含む)	○	沿線大学と連携したラッピング列車お披露目イベント実施 各種イベント列車として運用					1	2	3	11	2					◎	既存施設活用		
	○沿線の特色を生かしたイベント列車の運行(お座敷列車等、目玉となる列車)(方針4-②を含む)	○	七タ列車・クリスマス列車・ミステリートレイン・ライブトレイン・おやじジャストレイン運行(神戸県民局)															◎	継続(費用対効果考慮)	
⑦ ホームページ等の広報により粟生線の魅力を発信	○サイクルトレインの検討	○	(現状では安全確保上の問題から困難)															—		
	○おでかけガイドの充実	○	おでかけガイド(各年)、協議会だより(年4回)の制作・配布(新聞折込を含む)															継続(費用対効果考慮)		
○神戸電鉄粟生線活性化協議会ホームページの沿線情報、イベント情報、観光資源情報等の充実	○	協議会ホームページの制作・情報発信、新聞広告によるPR、駅PR放送設備整備(沿線高校生による利用促進放送)					3		11	19	8									

○：実施する事業(当初計画)
 ・：検討する事業(当初計画)

: 実施・着手施策 ※実施施策のうち重複しているものは、1か所のみを太字表記している。
 : 重複施策
 : 未着手施策 ※実施効果については定量的な効果推定が可能なものを表記している。

当初計画					実施状況																	
方針	計画の目標	事業	具体的な取り組み	活性化のため重点的に取り組む事業	実施施策(H22~24年度)	実施時期(年度)			実施効果(推定・千人)		協議会事業費(百万円)			その他事業	施策評価	ハード整備完了施策	継続性					
						H22	H23	H24	H22	H23	H22	H23	H24(予算)									
方針4	公共交通利用行動の喚起	公共交通利用意識の向上	① 企業や学校、転入者等に対するモビリティ・マネジメント等の実施	○沿線企業等に対するエコ通勤への協力要請(方針3-①を含む)	○	沿線住民へのTFP実施、沿線企業・学校へのMMアンケート実施、回答企業への協力要請				10	12	3		◎		継続(実施内容検討)						
				○小学生、園児を対象とした乗り方教室、体験乗車等の実施(方針3-②で対応)		公共交通利用啓発教材の制作、各種イベントでの活用(紙芝居等)、沿線小学生対象の工場見学会実施											継続(費用対効果考慮)					
				○転入者に対する公共交通利用案内マップの配布		アクセスバスマップ掲載のおでかけガイドの配布(新聞折込含む)											継続(適宜更新)					
				○携帯時刻表の作成・配布によるPR(方針3-①を含む)		おでかけガイド等に掲載・配布(新聞折込含む)											継続(適宜更新)					
				○公共交通の利用動機付けパンフレットの作成と配布(ダイエットや地球環境などインセンティブ付加)		利用啓発小冊子・ポスター制作・配布・掲出、利用者参加によるシンポジウム開催、利用啓発FM番組放送、地元FM局DJによる利用啓発車内放送実施											継続(実施内容検討)					
			② 栗生線キャラクター等による活性化のPR	○栗生線キャラクターを活用したPR	○	利用啓発ポスター・電照看板(新開地、高速神戸)掲出、キャラクター列車装飾・出発式実施、キャラクター着ぐるみ・利用啓発グッズによる各種沿線イベントでの利用啓発活動				1	2	2						○	継続(費用対効果考慮)			
				○シンボルマークを活用したPRグッズ等の製作		沿線大学と連携した車両ラッピング装飾、お披露目イベント実施														◎	既存施設活用	
				○沿線の魅力を発信するラッピング列車の運行(方針3-⑥で対応)		沿線大学と連携した車両ラッピング装飾、お披露目イベント実施																継続(費用対効果考慮)
				○沿線の特徴を生かしたイベント列車の運行(お座敷列車等、目玉となる列車)(方針3-⑥で対応)		七タ列車・クリスマス列車・ミステリートレイン・ライトレイン・おやじジャストレイン運行																
				○沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動		○県・市職員等による通勤・出張時の公共交通優先利用の推進															5	
方針5	安全で安定した鉄道輸送サービスの確保	安全で安定した鉄道輸送サービスの確保	① 国庫補助制度も活用した鉄道施設の効果的な更新(コンクリート枕木化、橋梁耐震化等)		継続実施								◎		継続							
			② 利用者動向・ニーズに応じた輸送サービスへの改善	○利用者ニーズを把握するための利用者モニター制度を実施	沿線イベント参加者へのアンケートや沿線住民、沿線企業・学校へのMMアンケート実施、地域住民による独自のアンケート実施(三木市)									○		継続(実施内容検討)						
方針6	沿線住民との協働	沿線住民と一体となった協働体制の構築	① 沿線地域との協働体制の構築	○地域住民による駅の美化活動やPR等、鉄道愛護意識の醸成	○	自治会での協議会だより等のPR物の回覧、地域住民によるアンケート・署名活動の実施(三木市)、利用者参加によるシンポジウム開催、沿線高校生による応援メッセージ絵画制作・掲出、放送作品制作、研究授業など各種活動協力				0.4	1	2		○		継続(効果的な方法検討)						
				○ご利用・ご乗車マナーの向上啓発(方針1-④で対応)		キャラクターによるマナー啓発ポスター制作・掲出、グッドマナーキャンペーン(高校生による絵画・放送作品募集)																
				○神戸電鉄の地域との交流を促進する社会貢献活動の検討		七タ列車・駅装飾、クリスマス列車運行における沿線幼稚園・保育園の協力														○	継続(効果的な方法検討)	
			② 無人駅のボランティア等による有人化	○神鉄サポータークラブ(仮称)の設置の検討	栗生線サポーターズくらぶ発足、会員募集活動、協力店舗・施設の開拓																継続検討	
				○ボランティア駅長等による無人駅の活性化	(実施環境整わず)																継続検討	
③ 企画きっぷの販売や情報発信を行うフレンドショップ(販売拠点)の設置	○駅の空きスペースを活かした活性化策の展開(方針2-④を含む)	(実施環境整わず)														継続						
			○PR協力等によりフレンドショップを拡充(方針1-①で対応)		シニアパス、おもてなしきっぷ、栗生線サポーターズくらぶへの協力店舗拡充											継続(効果的な方法検討)						

○：実施する事業(当初計画)
 ・：検討する事業(当初計画)

：実施・着手済施策
 ：重複施策
 ：未着手施策

※実施施策のうち重複しているものは、1か所のみを太字表記している。
 ※実施効果については定量的な効果推定が可能なものを表記している。

65 177 51 94 23

【資料－４－３】

「現・連携計画の事業・具体的な取り組みの実施状況」について（補足）

1. 資料体裁について

- ①左側に現・連携計画（当初計画）での具体的な取り組み計画を表記
右側に上記に対応する H22～24 年度の実実施策を記載
- ②計画での取り組み項目のうち、**実施・着手したもの**：ピンク、**未着手のもの**：**黄色**で着色。（グレーは重複記載されているもの）
- ③各実施策について、実施時期、実施効果（推定）、事業費、施策評価、次期計画での継続性等を記載。
 - ※「**実施効果**」は、定量的に効果推定が可能なもののみ表記。
 - ※「**事業費**」は、本協議会事業費として実施したものを表記。
（本協議会以外の事業で実施したものは、その他事業の欄に注記）
（全体の合計値は 3 枚目の再下段に記載）
 - ※「**施策評価**」は、特に定量的な効果が大きかったものや、利用啓発効果が高かったと考えられるものに◎や○を付記。
 - ※「**ハード整備完了施策**」は、今後もハードを稼働させて効果をあげていくものとしてピンクで着色。
 - ※「**継続性**」は、次期計画において、費用対効果向上や方法・内容の見直し等も含めて継続していくもの：緑色、既存施設を継続活用するもの：ピンク、未着手で継続検討や実施困難なもの：黄色で着色。
- ④実施策（H22～24 年度）のうち、定量的な効果が大きかったものや、利用啓発効果が高かったと考えられるものなど、**主な施策を青字**で表記。

2. 総括

- ・ 全体として、当初計画予定の各取り組み項目については、何らかの形で網羅的に施策を実施してきた。
- ・ 特に H22、23 年度は国の補助も活用し、今後の利用促進にも寄与するハード整備（企画乗車券販売機、パーク＆ライド駐車場、ラッピング列車、駅 PR 放送設備など）も実施し、これらの一層の有効活用を図っていく。

- ・ シニアパス、昼間・土休日お得きっぷ、おもてなしきっぷ等の新規サービスの提供にも取り組み、個々の増収効果の状況を見極めながら販売強化や見直しをかけていく。
- ・ 活性化の土壌づくりとして、沿線地域への各種利用啓発活動にも注力した。（ご利用ガイド・協議会だよりの発行、キャラクター等を活用した啓発活動、利用啓発小冊子「乗らないと残りません」・ポスター「粟生線の問題はあなたの生活の問題です」等の配布・掲出など）
- ・ 直接的な集客イベントとしても、トレインフェスティバル、ミステリートレイン等の鉄道に愛着を持っていただける企画や、沿線小学生の農業体験学習、地域店舗や観光資源と連携したスタンプラリーなど地域交流と絡めた企画を実施した。
- ・ 鉄道利用への転換促進のため、沿線住民への TFP、沿線企業・学校へのアンケート、利用者参加のシンポジウムなど、モビリティ・マネジメントにも取り組んだ。
- ・ 基本的にこれら実施施策については、これまでの実施結果を踏まえて、より費用対効果の高い方法や内容に見直しをかけながら継続して取り組んでいく。
- ・ 一方、沿線住民の参画・協働による利用増加への取り組みは、サポーターズクラブの発足等はあるものの、まだ十分な取り組みには至っておらず、今後さらに強化を図っていく。
- ・ また、定期利用者の増加施策やアクセスバスの検討など、現・計画期間中には未着手や十分な施策効果が現れるに至っていない施策については、実現困難なものは別として、次期計画の課題として考えていく。

以上